

外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援の取り組み（報告）

(一社)大学女性協会奈良支部 支部長 中道貞子
企画担当 志垣 瞳

2020年5月、奈良支部では、「コロナ支援募金」を実施しました。その使途の一つとして、外国にルーツのある子どもたちの学習を支援している団体を対象に、学習に役立つ教材等購入費に充当してもらうことを企画しました。

その理由は、2019年度に実施した「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組～保護者と子どもたちの教育問題をめぐって～」の調査で、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語指導は、公的機関だけでは難しく、今回対象としたような支援団体などのサポートが大きな役割を果たしていることを知ったからです。

奈良県で外国にルーツのある子どもたちの学習支援をしている7団体に連絡を取ったところ、2団体からは辞退の連絡がありました。一つの団体は現在該当する生徒が一人しかおらず、あまり活動ができていないことが理由でした。もう一つの団体は、6年前から取り組んできた「外国ルーツの子ども勉強会」は、中国・フィリピン・ペルー・ボリビアの子どもたち約20人が登録しているが、コロナウイルス感染拡大の中、スタッフの多くが高齢者であることから、活動が休止状態とのことでした。

学習教材費受理の要請があった5団体について教材費をお渡しました。年度末には、2団体から報告がありました。1つの団体からは、購入した教材の写真と子どもたちの学習状況について、以下の報告がありました。

【子どもたちの学習状況】

7月と8月の2回ずつ教室を開催しましたが、その後は市の判断で、日本語教室の中止の延長が繰り返され、ついに年度末を迎えました。7月は4人、8月、8月は5人、3人の延べ20人の参加で、コロナの流行を心配してやや少なめの参加でした。

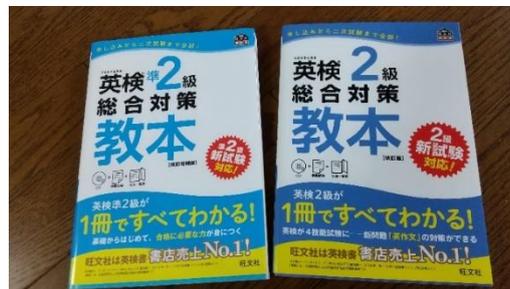
ブラジル教室は保護者・スタッフ共に、コロナウイルスへの心配から開催そのものが中止されました。流行が一旦低調になり、10月15日のブラジルの子どもの日に合わせ10月17日に再開しましたが、すぐにコロナ再流行により、中止が年度末まで続きました。

中止の連絡をしても学習の支援や相談を求められる家庭が2軒あり、その家庭事情も考慮して2家庭4人の子どもの学習支援をNPO単独（スタッフ3人）で8月以降年度末まで続けました。幸い、市が公民館の部屋を確保してくれましたので、落ち着いて学習を行うことができました。

そのかいもあり、高校1年生（女）は2月の英検準2級に合格し、無事進級できました。また、高校3年生（女）は専門学校に合格しました。なお、専門学校受験に関しては学校選びから奨学金の説明・申請等々、コロナ禍の休校も関係してか十分高校で対応してもらえず、保護者への説明等ほとんどこちらでサポートしました。

残念なことに高校2年生（男）は、コロナ禍中に父親との関係が悪化したこと、学習面についていけなかった等々の理由から中退するに至りました。さまざまなサポートが実を結ばなかったことは本当に残念ですが、現在通信制高校の2次試験の受験を勧め、願書提出直前…といったところでした。

小学校2年生（女）は講師に日本語のサポートをしていただけることになりましたが、あいくのコロナ禍による休校もあり、なかなか軌道に乗らず、やっと人間関係ができてきたところで、サポート終了となるようです。しかし、今後も特に日本語学習のサポートが必要だと思えます。



もう一つの団体からは、購入した教材と学習している子どもたちの様子を写した写真が送られてきたので紹介します。

